

## 「学連での学生生活で学んだこと」

九州学生卓球連盟 幹事長 岸川拓磨

この度「日学連アゴラ」に文章を掲載させていただき、誠にありがとうございます。ご一読いただけると幸いです。

私は、学連での学生生活で“感謝の言葉の大切さ”と“組織員とのコミュニケーションの大切さ”を学びました。

私たちはコロナ世代にあたり、一年生の夏頃から大会が始まりました。また九州学連は大会運営を経験したことある学生が少なく、人数も決して多くはありませんでした。“幹事長が全てを一人で行う”そのような学連でした。この中で九州学連が行ったことは、“仕事を細分化し、各委員会に振り分ける”とういことでした。

主に大会委員会、事務委員会、監査・会計委員会と分けられ、各委員会の委員長が情報を共有し、理事長に報告していくような仕組みです。幹事長だった私は大会委員会の委員長になり、体育館との打ち合わせや大会運営に力を入れていました。

私が行ったこととしては、大会運営を通しての後輩の育成や、マニュアル作成、学連内外でのコミュニケーション 等など、九州学連が動きやすくなるように縦横の繋がりを強化していきました。私は少しポンコツであるため、とりあえず“皆が何でも言える環境であれば九州学連が成長し続けることができる！”と思い、自分が本部にいなくても運営が行えるように教え込み、たくさんの方たちとコンタクトするように心がけました。改善点を聞いて、運営に取り込む。その繰り返しでした。

その結果、審判長の方たちから よくなってきたね！ などとお褒めの言葉をいただけるようになり、少しずつよい方向に変わっていているのかなと思います。

私はこの約3年間を通して、未熟な自分についてきてくれた九州学連の皆、理事の方には感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。自分でも少しは成長できたのかなと思います。来年度も、しっかりと学連に関わっていきますのでよろしくお願い致します。

最後になりますが、幹事長になるということは限られた人しかなることができません。とてもいい経験になり、一生の財産となることと思います。九州学連の後輩たち、これからも頑張ってください。これからどんどん大きくなっていき、成長していく姿を楽しみにしています!!

最後まで御高覧いただきありがとうございました。